ロボットコレクションSS（練習）

藤村文幹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ロボットコレクションＳＳ（練習）

【Ｎコード】
Ｎ９６１２Ｗ

【作者名】
藤村文幹

【あらすじ】
「一日一ロボ作るよ。」という個人ブログで製作したロボットの設定を使って書いたＳＳです。

アイアンロッド（前書き）

とても短いです。
原則、「一日一ロボ作るよ。」で製作した設定のロボが動いている
雰囲気を伝えるだけの物です。

アイアンロッド

『警告する。投降しない場合はこのまま砦を破壊する！！』

渓谷に築かれた城塞に、人型のものが掌を向けている。人、ではない。巨大だが巨人でも無い。

機械の軋む音。遠くからでもはっきりと分かる魔法陣が放つ冷たい光。前に付きだした腕の内側では、光る刻印のされた魔導輪が唸りを上げてゆっくりと回転している。

スタッフギア。人型機械式魔法杖。最新式の、科学を持って魔法を増幅する最先端の魔法の杖だ。その魔法増幅効果は機械式魔法杖と同等。防御効果は数段上。

『繰り返す。投降しない場合はこのまま砦を破壊する！！』

若い男の声だ。スタッフギアを操る魔導師の声か。

砦は沈黙を続ける。城壁の上から兵士達が下を覗き、震えながらスタッフギアの所作を見つめている。恐れているのだ。

一兵士にとって、単機で兵士１００とも言われるマジックギアは恐怖の対象でしかない。戦場を破壊する悪魔なのだ。兵士達が血を流し、屍を晒すというのに、スタッフギアの魔導師は悠々と歩いて兵士達を蹂躙する。

砦は沈黙を続ける。

光を放つスタッフギアの腕が次第に輝きを増す。つられて唸りも大きくなる。

スタッフギアを見つめる兵士が眩しさで目を閉じた頃、光がかき消えた。輝く光が風のような速さで砦の壁にぶつかって、岩が高いところから落ちて割れるような音と共に消えた。

光がぶっつかった壁は、ない。積み重ねられた石が、内側に吹き飛んで粉々になったのだ。

『今のは警告だ。このまま返答が無い場合、砦と配置された兵達の無事は保証しかねる』

脅しだ。この上なく、現実に近い。

数刻後、この砦は陥落した。

アイアンロッドと呼ばれるスタッフギア単機によって、陥落したのだ。

アイアンロッド（後書き）

このＳＳはこちらのページに設定が載っています

ｈｔｔｐ：／／ｂｌｏｇ．ｌｉｖｅｄｏｏｒ．ｊｐ／ｔｏｈｋａ｜１ｄａｙｌｃｈａｒａ／ａｒｃｈｉｖｅｓ／３６２４８０１．ｈｔｍｌ

ディザスターマン

夜の街をディザスターマンが駆ける。駆け行き先には噴煙を上げ炎の舌が覗く高層ビル。

人型トラックの技術を流用して作られた人型緊急救助車両ディザスターマン――その活躍の場は限られている。

『トニー、ちゃんと付いて来てる？』

通信。過酷な現場に行く前の軽口だ。

『後見ればいいだろー？　ちゃんと付いてるよぉ』

『後なんか見てらんないよ』

現場のビルの直下に到着。しかし休んでいる暇はない。

『外壁は、ガラス張りか。吸盤が使えるね。じゃ、いくよ』

腰の辺りに両腕を持っていくと、オペレーターの簡単な操作でディザスターマンの両腕に登攀用吸盤が設置される。オペレーターは吸盤を確認すると、ディザスターマンを大きくジャンプさせた。

片腕を振り上げ、ガラスの壁面に吸盤が吸い付くようにそっと下ろす。吸盤は与えられた性能を満たすために強固な吸着力をもってガラスに張り付いた。オペレーターはこれだけでは満足しない。空いた片手を張り付いた吸盤の位置よりうでに持っていき、貼り付ける。次は吸盤内に空気を入れ、吸盤を剥がし、片手より高い位置に張り付く。

繰り返す。

繰り返す。

地味な作業ではあるが、消防車も救助ヘリもまだ到着していない。ディザスターマンはどんな緊急車両よりも先に、いの一番に現場に到着する。時には二足で道では無いところ走り、時には四輪になって車道を走る。誰よりも早く、速やかに。

繰り返し繰り返して目標の高さに付くと、腰にマウントしてあったガラス削りを手にとって壁をガリガリと削る。高いのでガラスを

落下させてはいけないのだ。
必要な分だけ丸を描くように削ると、ガラス面を叩いて内側にガラス片を落とすように穴を開けた。
オペレーターはガラスに空いた穴にディザスターマンの前方に空いたワゴン入り口を据える。
「助けに来たよ！　けが人病人子供優先で5人まで！　つぎが来てるから押さないでゆっくりとね！」
拡声器によるアナウンス。

ディザスターマンのワゴンは救急車ほど広くない。ディザスターマンは消防車ほどの消火能力はない。けれど、どんな緊急車両より速く、迅速に、現場に到着する。

ディザスターマン（後書き）

今回のロボットは以下のＵＲＬにて設定を見ることができます。
ｈｔｔｐ：／／ｂｌｏｇ．ｌｉｖｅｄｏｏｒ．ｊｐ／ｔｏｈｋａ－１ｄａｙｌｃｈａｒａ／ａｒｃｈｉｖｅｓ／３６５３８８８．ｈｔｍｌ

ＨＴ－１２

鉄の兵士が砂漠を駆ける。
ジグザグ走りを基本とし、大まかに弧を描くように戦車に接近。飛び上がり戦車の頭上から撤甲弾をバラ撒く。
人型戦車――その名の通り、戦車を人型にしたものだ。関節式駆動により戦車に真似できない三次元機動をし、歩兵より多くの火力を持ち、ヘリに出来ない素早い回避運動を行う兵器。徹底的な自動化簡易化により一人でも操縦出来るこの兵器は、実に大量に作られ、屋外では歩兵と戦車の代替となった。
戦車を蜂の巣にし、内部の人員を殺戮したＨＴ－１２は戦車の背後に着地する。背中のポッドから吸着地雷を射出して戦車にくっつけるとそのまま次の獲物を狩りに走る。
止まれば戦車に狙い撃ちされ、戦車砲の一撃でＨＴ－１２は撃墜されてしまう。当たり所が良くても腕の一本は無くなる。脚に当たればなぶり殺しだ。ロケットランチャー持った歩兵に囲まれても同じ運命。常に動かなければ、撃たれて死ぬ。
時に撃ち、時に跳躍し、戦場を無尽に駆け抜ける。
ガッ『アルファ１、待ってください！』
ガッ『走れアルファ４！　死ぬぞ！？』
通信。通信の向こうからアルファ４の悲鳴が聞こえて、通信が途絶える。後方で爆発が起き、通信で送られてくるマップデータからマークが消える。昨日、ちょっとしたゲームに勝って喜んでいた新人だった。
人型戦車は機動力と攻撃力を駆使すれば地上最強だ。それだけに扱いは難しいし、敵も優先して狙う。止まってはいけない。
僚機がもう１機、爆散した。
アルファ１、サムは戦場を駆け、戦車を狩った。１機ずつ脱落していく僚機たちと共に、戦車を落とし、歩兵をなぎ払う。

敵はまだ温存している。敵の人型戦車はどこだ。サムは周囲に目を向けながらも止まらない。

走って走って走り続けて、いつかこの戦争が終わるまで走り続けるだろう。

止まれば死ぬ。

HT－12（後書き）

今回のロボットは以下のURLから設定を見られます。
http://blog.livedoor.jp/tohka-1day1chara/archives/3479429.html

ガン・ボーズ（前書き）

ゾンビ注意。

ガン・ボーズ

東京の街を死体が歩く。虚ろな目や冷えた体から死体であるのは明白で、本来動くはずがない者だ。

死体が一つ。それは２０ｍを越える体躯を緩慢に動く。一歩、また一歩あるく度に汁がぽたりとしたたり、腐臭をまき散らす。

窓が割れた病院から5歩。それだけ歩いたところで、周囲のスピーカーが一斉に音を鳴らす。

なぁぁぁぁあああああむぅぅぁぁぁぁみぃだぁぶぅぅぅぅぅぅうっ、ぅぅつぅぅぅぅぅぅぅぅ…。

お経だ。坊主１００人が集まって録音したものを流しているに過ぎないが、確かに経は経である。

病院から２００ｍ離れた消防署にある倉庫の屋根が開いた。単調な電子合成の警告音が響く。消防署の前に陣取った市民団体がただでさえ騒がしい声を一層荒げた。手に持った横断幕には「国による死者の冒涜を許すな！」とか「税金を無駄に使うガン・ボーズ反対！」だとか書いてある。プラカードや旗、Ｔシャツなんかにも文字が書いてあるが、内容は似たようなことだ。

倉庫から巨大な坊主が立ち上がる。袈裟を着た、機械の坊主だ。禿頭がつるりと太陽光を反射する。

坊主は両手の甲に付けたチェーンソーをぎゅいんぎゅいんと回し、全身の穴から炎を一瞬だけ噴いた。

『えー動作チェック。天気輪及び荼毘炎噴射機共に正常。周囲に警告。ガン・ボーズが出動します』

ガン・ボーズの備え付けのスピーカーから搭乗僧侶は動作が正常であることと、これから出動することを伝えた。これから始まるのは儀式なのだ。死者を安らかに送るための、儀式なのだ。

『今回の仏様は矢須伸介、８６才の男性。ゾンビ熱により5分前に死亡。希望は浄土真宗式。巨大化し街を徘徊中……それでは始めさせていただきます』

葬式ではない。まして通夜でもない。現代において追加された新しい儀式。生ける死者となってしまった者を安らかに送るための、葬儀に先駆けて荼毘に伏す無力化式。

『いざ、南無阿弥陀仏ッ！』

ガン・ボーズ（後書き）

ガン・ボーズの設定は以下のＵＲＬにて公開しています。
ｈｔｔｐ：／／ｂｌｏｇ．ｌｉｖｅｄｏｏｒ．ｊｐ／ｔｏｈｋａ｜１ｄａｙｌｃｈａｒａ／ａｒｃｈｉｖｅｓ／４９５６１８１．ｈｔｍｌ

ギャラクシーエクスプレッシャー

銀河に敷かれたレールの上を汽車がゆく。それは銀河を旅する銀河鉄道。

その食堂車。

「宮沢先生、次はどこでしたっけ？」

乗客のケンジ少年がテーブルの向かい側に座る、黒いコートを着た青年に聞く。少年が宮沢青年と呼ぶ青年は湯飲みに注がれた熱い茶を啜った。

「確か、金牛宮駅でしたね。野菜が名産で、タウロスタマネギを使った牛丼は絶品だとか」

「牛丼！？　楽しみだなぁ」

「ケンジ君、お仕事が終わってからですよ」

談笑する二人。窓越しにはグスコーブが併走しているのが見える。

「あ、さっき郵便を見たんですけど、金牛宮のサインモンスターは牛型じゃないみたいですね、先生」

と、前方から爆発音。

ケンジ少年と宮沢先生は車窓から身を乗り出し前の方を見る。金牛宮駅の駅ビルが巨大な金色の巨人に攻撃されていた。

「これはいけません。ケンジ君」

「はい！　先生！」

二人は先頭の機関車に急いだ。

先頭の機関車が後続車両を切り離し、レールの上を走り続ける。いくつかの箇所に切れ目が入り、そこから分割され、位置が変わっていく。

「エクスプレッシャー！」

人型になると、中から操る宮沢先生が叫んだ。

そう。これこそがダークマターによってサインモンスターへと変

質してしまった守護星神を元に戻すために作られた銀河鉄道勇者エクスプレッシャー！
「ケンジ君！　準備はいいですか？」
『いつでもいいですよ先生！』
「では、お願いします」
『はい！　ギャラクシーシステム、ドライブ！』
宮沢先生の要請に戦闘指揮車両のケンジ君は答え、拳でコントロールパネルの赤くて目立つボタンを叩いた。プラスチック製カバーが割れる。
「エクスプレッシャー、ギャラクシーフュージョン！」
金牛宮の駅から鳶色の鳥―スターヨダカが飛び立つ。併走していたグスコーブドリが立ち上がり、二つに割れる。貨物車両からセローゴーシュが射出された。それらはエクスプレッシャーの周りを変わると、あるべき姿へと変形していく。
「雨にも負けず、風にも負けない！」
そして変形したグスコーブ、スターヨダカ、セローゴーシュがエクスプレッシャーにドッキングし、エクスプレッシャーは真の姿を現した。
「そういう者に、私はなった！　ギャラクシィィィエクスプレッシャー！」
そう。物語は力を与える。
胸に輝く太陽のマーク。翼は夜鷹のように大きく、脚は燃える火山のように黒く、両腕はセロのように繊細ながらも力強く、そして銀河鉄道のように気高く強い、ギャラクシーエクスプレッシャーだ。
「さあ、サインモンスターよ、元の守護星神に戻っておくれ」

ギャラクシーエクスプレッシャー（後書き）

ギャラクシーエクスプレッシャーの設定は以下のＵＲＬのロボットから少し修正を加えました。

ｈｔｔｐ：／／ｂｌｏｇ．ｌｉｖｅｄｏｏｒ．ｊｐ／ｔｏｈｋａ－１ｄａｙｌｃｈａｒａ／ａｒｃｈｉｖｅｓ／４８８０７２７．ｈｔｍｌ

元々ギャラクシーケンジオンでしたが、名前が余りにも酷いので改造。

ＣＩＨＷＳ－００１　ファランクス

宇宙戦争と聞いて、宇宙戦艦同士が超遠距離から撃ち合っているのを想像した奴。君はきっとこの世界の宇宙戦争にはついて行けないだろう。

艦隊の近くにワープアウトして湧いて出る機動兵器を機動兵器が迎え撃つ。撃つのに時間が掛かる戦艦の主砲はこの戦いでは役立たず。縦横自由に動く機動兵器に悠長に照準を合わせてたら先に砲塔がやられる。そういう戦いだ。

人型兵器ファランクス達は陣形を組んでワープアウトしてくる敵を撃つ。陣形から外れて敵の攻撃に当たる機体もいる。戦艦に当たりそうなミサイルに銃撃を与えて迎撃もする。

『まだまだ来るぞー！　オマエラ気合いれろー！』

女性の声がファランクスのオペレーター達に届く。激励に気を良くしたオペレーターは我先に戦功を得るために敵に突撃する。時には陣を組んで、時には単機で突出して。

エリーの操るファランクスは僚機が全ていなくなってしまった。それどころか周囲に味方機がいない。母艦の直近にも関わらず、一種の空白になっていた。

『うわまずぃ』

エリーが周囲を見渡すと、突撃してくる敵が2機。絶対に通してはいけない。

エリーは銃撃で片方を狙って攻撃する。アサルトライフルの弾はまばらにあたるが攻撃力が足らない。全部撃ち尽くしてやっと片方を爆散させた。爆炎からもう1機の敵が姿を現すと、エリーのファランクスに向けて銃撃を与えてくる。ビーム、それも戦艦に当たるコースだ。

エリーは一瞬の判断で片足を切り離し、敵の放ったビームに当てる。片足は派手に爆発する。
切り離した脚が爆発するより先にエリーはブースターを噴射させて前へ突進する。直線的な動きで母艦に突撃を掛ける敵の進むコースに機体を近づけ、もう片足を切り離して置いた。
エリーが片足を置いて離脱した直後、突っ込んできた敵を巻き込んで脚に仕込んであった爆弾が爆発する。
『よし、なんとか。コマンダー！　一旦帰還します。艦左側面に味方機がいない空白があるからさっさと次発進させて。あと武器が無くなったから一度着艦させる』
エリーは言いたいことだけを一方的に言い散らしてからバーニアを調節して母艦の着艦口に向ける。
艦に入る直前、流れ弾でエリーのファランクスは撃墜された。

「あー！　また着艦直前にやられたー！」
艦内部のオペレートルームでエリーは自分の頭をかきむしって叫んだ。横の同僚が「またぁ？」とあきれ顔だ。
『ちょっとエリー。着艦直前は注意してって何回も言ってるじゃない』
コマンダーからの通信。わかってるよと答えつつエリーは格納庫を呼び出した。
「おいメカニック。次のファランクス用意出来てる？」
『5分待って。今さっきキミの要請で用意してあったのが全部出たんだ』
「えー」
ファランクスは記録にしか残っていない大昔に使われていたCIWSという武器、その代替だった。宇宙での艦隊戦が主流だった時代に消えて、また必要とされた。思考加速した人間の判断力を使うため、人が無線で操作する。壊れても次を出せばいい。そういうことだ。

「こちらエリー。ファランクスもっかい出るよ！」
『今度は壊さないでね。安くないんだから』
「分かってるって！」

CIHWS－001　ファランクス（後書き）

ファランクスの設定は以下のURLで公開されています。
http://blog.livedoor.jp/tohka-1day1chara/archives/4264081.html

ピッケメルクーリオ

黒い人型が走る。片手に剣一本だけを携え、弾丸の嵐を避ける。右に左に上、ときには空中で軌道を変えて下、崖を蹴って斜め。

黒い、ピッケメルクーリオが走る先に大量の火器を乱射する白いロボット。両肩のチェインガン、両腕のマシンガン、腰両側の機銃、さらには背中に背負ったミサイルまで撃つが当てられない。六本もある脚をロクに動かさず、その場に立って。

『あたれ、当たれよ！　こんなに撃ってるんだぞ！』

ある種の恐慌か、ヒステリックな声を上げて白いロボットのパイロットが喚く。対するピッケメルクーリオは無言。一切発言をせずに敵の独壇場であったはずの距離から大地を走る。

ピッケメルクーリオは敵の手前１００ｍから大きく跳躍する。バーニアを全力噴射し、前へのベクトルを大きくする。

跳ぶ黒い影を追うように白いロボットは撃ち続けるが、照準よりもピッケメルクーリオは速い。白いロボットの上空を飛び越し、すぐさま反転して着地。剣を地面に刺し両足を擦らせブレーキング。白いロボットの旋回が９０度になったところで再び駆け出し、右側から剣を振り駆け抜ける。白いロボットの右肩と右腕の武器がまとめて両断され、爆発する。

『うわぁ！』

勝負は決まった。トドメは消化試合だ。

「ふぅ」

飛矢剣介（とびや・けんすけ）はボクスボットの筐体から出て伸びをした。

「やっぱこいつ使いやすいわ」

剣介が抱えているのはボクスボットの収納ボックス、ボットボックス。サイズは一番小さい小型だ。ボクスボット本体と武器が２，３個しか入らないが、彼のピッケメルクーリオには問題無い。初期

装備では実体剣が一本しか付属していないのだ。カスタムした後ならともかく、機体の慣らしのために初期装備で遊ぶ分には全く問題無い。

「しかし今の相手、弱かったな。全く動かないから的を相手にしてるみたいだった」

彼はまだボクスボットを始めたばかりの少年だった。最初はプロメテウスハーツという、遠距離砲撃戦を得意とする高級機を使っていたが、彼には合わずに使いこなせないでいた。

「きっと、保治と戦う時の参考には、ならんだろうなぁ」

彼は友人である少年のピッケメルクーリオと自分のプロメテウスハーツを交換したのだ。初心者モデルだが、性能が尖っている。しかし剣介には、この上なく合っていた。

「よし、じゃあカスタムを試してみるか。機体名は、ソードメリクリウス。うんそうしよう。その方が俺のロボットって感じがする」

ボクスボット。最低ランクの機体でも一体五千円から。一プレイ２００円、カスタムするなら機体と同程度の金を掛けるのが当たり前。

剣介のような中学生には、金の掛かる遊びである。

ピッケメルクーリオ（後書き）

ピッケメルクーリオの設定は以下のＵＲＬで公開中です。
ｈｔｔｐ：／／ｂｌｏｇ．ｌｉｖｅｄｏｏｒ．ｊｐ／ｔｏｈｋａ｜１ｄａｙｌｃｈａｒａ／ａｒｃｈｉｖｅｓ／３６４３９１８．ｈｔｍｌ

エーテルＳ２

「敵襲！？　今時宇宙海賊だって？」
冗談じゃない、とトトは喚いた。ＡＥＳ免許を所持しているトトは宇宙図書艦の艦長から戦うように要請されたのだ。
「俺は作業員として契約したんだぞ！　戦うなんて無理だ！」
『だが事実としてＡＥＳを使えるのは君だけだ』
「宇宙服と一緒だろあんなもん！　そもそもエーテルＳ２は作業用パッケージ。戦闘には耐えられないって」
艦長が頼むのも分かる。作業員とはいえ、戦う術はトトしか持っていない。内部での白兵戦ともなれば、ＡＥＳを装備せずに行うのは無謀を通り越して莫迦のやることだ。
だがトトが言うように、ここにはエーテルＳ２という空間作業用パッケージしかない。武器は用意されているが、戦闘用とはそもそもの性能が違う。中でも機動力の差は歴然だ。

（中略）

「ホントにボーナス出してくれるんですよね？　俺が死んだらウチのばーさんに渡してくれるんですよね？」
スーツの上からエーテルＳ２のパッケージ着け、ハードポイントに銃や斧などの武装を装備したトトは確認するように艦長に聞いた。
『保証するから！　速く！』
「分かりました。行きますよ」
宇宙海賊といえど、今図書艦を狙うのは食いっぱぐれて盗賊まがいの事をしているごろつきだ。希少本や珍しいデータがあるとはいえ、図書艦を狙う宇宙海賊が上等なものであるはずがない。ならば、一人でも十分に戦える。と自分に言い聞かせてトトは作業用気密口から空間に出る。

すぐ１００ｍの距離には古い型式のＡＥＳが群れを成して迫ってきていた。
「恨むなよ！　こっちだって死にたくないんだ」
気密口の影からビームガンをショットモードにし、撃って群れをまとめて攻撃する。ＡＥＳは宇宙服の発展系であり、少しでも傷つければ勝手に脱落する。
エーテルＳ２は攻撃に耐えられるほど丈夫じゃない。防御を図書艦の船体にやって貰うのはトトの判断だ。
「連射モード、セット。こっちに、来るなよ！」
細かいビームの弾丸を撃ちまくる。これで少しでも怯んでくれれば良いのだが。

エーテルＳ２（後書き）

エーテルＳ２の設定は以下のＵＲＬへ

ｈｔｔｐ：／／ｂｌｏｇ．ｌｉｖｅｄｏｏｒ．ｊｐ／ｔｏｈｋａ｜１ｄａｙｌｃｈａｒａ／ａｒｃｈｉｖｅｓ／３６６３１６０．ｈｔｍｌ

アイアンロッドｗｉｔｈジャミングサンドブラスター（前書き）

アイアンロッドが特殊装備「ジャミングサンドブラスター」を使うだけのＳＳです。

アイアンロッドwithジャミングサンドブラスター

敵のを躱し、アイアンロッドは後に飛び退った。
アイアンロッドは今攻撃してきた敵がスタッフギアだと分かると、腰のランチャーからサンドブラスターを放つ。放たれた砲弾がアイアンロッドと敵の中間で破裂し、前方の敵に向かって重金属製の砂を吹き付ける。
防御力場に細かい波紋がいくつも現れては消え、力場を削る。敵スタッフギアは防御態勢を取って力場を厚くし、整える。
アイアンロッドは相手の動きが止まったことを確認してランチャーから二発目と三発目のサンドブラスターを発射する。空中に細かいアルミ箔が舞い、敵周囲のマナを乱す。マナの供給が止まり敵が展開する防御力場が削れていく。
「こっちも、くらえ！」
アイアンロッドは両腕から風の魔法弾を乱射、力場を削り、四発目のサンドブラスターを発射。吹き付けられた砂は力場を貫き、敵スタッフギアの関節や魔導輪の隙間に入り込む。
「よしっ」
アイアンロッドは背中の鞘から剣を抜き放ち、両手で持って駆け寄る。
敵は体勢を整えようと機体を動かすが関節に入り込んだ砂が干渉しあってフレームを削る。同時に剥き出しの魔導輪にまとわりついた砂に阻害されて回転を止めた。
アイアンロッドは敵の醜態を確認して悠々と剣を振り上げた。
「魔導輪には風の防御ぐらい掛けておけっての」
敵の魔導師はその声を聞きいて2秒後に死亡した。

アイアンロッドwithジャミングサンドブラスター（後書き）

ジャミングサンドブラスターは以下のURLで設定を公開中です。
http://blog.livedoor.jp/tohka_1day1chara/archives/3741922.html

使用機体のアイアンロッドは以下のURLで設定を公開中です。
http://blog.livedoor.jp/tohka_1day1chara/archives/3624801.html

ハンマーブーメランwithディザスターマン

『トニー、準備はいーかー？』
ビルの外壁に張り付くディザスターマンに地上から別のディザスターマンが呼びかける。
『こちらトニー。準備いいぞ！』
トニーの答えに、下のディザスターマンは持っていたブーメラン状の鉄塊を振りかぶり、投げた。
回転しながらまっすぐに鉄塊は飛び、トニーのディザスターマンが自動動作で掴んだ。
『キャッチ成功！　これより破砕作業に入る』
トニーは操縦桿を握り直し、目の前の壁に下のディザスターマンから受け取ったブーメラン状の鉄塊―ハンマーブーメランを叩きつけた。一度で無理に壊そうとはしない。万一、外壁が崩れすぎてしまったらディザスターマンも落ちてしまう。バランスが崩れた状態ではディザスターマンの滑空は使用が出来ないのだ。
トニーは慎重に、しかし壁が壊せるように力を加えて何度も外壁を叩く。
ハンマーブーメランの尖った箇所が外壁を崩し、そこから更に大きく穴を広げている。
穴が５０ｃｍ程度になったところでトニーはその穴に向けて呼びかける。
『誰かいるか！？　いるなら返事を！』
三十秒きっかり待って、いないことを確認する。
『じゃあ返すぞ！　いいなー？』
トニーはディザスターマンを操作し、下のディザスターマンにハンマーブーメランを投げ返す。
ハンマーブーメランは重さ故に登攀の邪魔になってしまう。だから、投げ合って受け渡しを行う。

『キャッチ成功！　トニー、次急げ！』
『分かってるよ！』
操作を誤ってしまったり、プログラムの調子が悪ければ、彼らは簡単に死ぬ場所にいる。

ハンマーブーメランwithディザスターマン（後書き）

シチュエーションは気にしないでください。
ハンマーブーメランの設定は以下のURLへ
http://blog.livedoor.jp/tohka-1day1chara/archives/3789838.html

ディザスターマンの設定は以下のURLへ
http://blog.livedoor.jp/tohka-1day1chara/archives/3653888.html

ソードフィッシュwithピッケメルクーリオ

「さて、相手はちょうど格闘型か。いい感じにこいつが試せる」
何もない平地で障害物が何もないのに攻撃をする様子がない対戦相手を見て、剣介は呟いた。
剣介は現在、様々な武装を試している最中であるが、今回メインにテストするのは肩と腰の後ろにそれぞれ二つずつ装備している武装だ。
「射程はどんくらいだっけな」
剣介はピッケメルクーリオの機動性をフルに活かして接近を仕掛ける。相手も剣介に向かって走って近づいてくる。
「……ッ！」
相手の機体は黒く、流線を描くラインがかっこいい……ピッケメルクーリオだった。
「ッ同型！？」
驚く剣介を他所に相手は背中から剣のようなものを上方へ８本、射出した。剣のようなものは空中を舞うと全てが別々の軌道を描き、全て剣介のピッケメルクーリオを狙う。
「なッ！？」
見覚えのある武装だ。剣介のピッケメルクーリオの背中にも同じものがある。初撃の八連を避け、急いで相手をロックオンしてソードフィッシュを射出する。
２，４，６……７本目と８本目を腰の後ろから射出する寸前に、横に回り込んでホーミングし剣介を狙うソードフィッシュにより２本まとめて串刺しにされる。空中に射出できたソードフィッシュも相手のマシンガンにより２本落とされた。
腰を落として跳躍のようなダッシュをする相手に、剣介は剣を振りかぶり敵を攻撃しようとする。振りかぶった腕を敵の日本刀の形をした刀に斬られ、直後７本のソードフィッシュに後から串刺しに

された。

画面には「ＹＯＵ　ＬＯＳＥ」と表示されている。

「ま、負けた！？」

完敗、である。驚愕により心に隙ができた。そこを突かれたのだ。

同じ機体、同じ武装……しかも相手は自分より慣れていた。上手かった。機動も攻撃のタイミングも全て。

だが、

「……わくわくしてきた！」

剣介はへこたれない。分かったことがあるからだ。

「こいつ、すげぇ！　ソードメリクリウス、お前、あんな動きも出来たんだな！」

ピッケメルクーリオ。初心者向け既成モデルでありながら、上級者の操縦にも対応できる傑作機である。

ソードフィッシュwithピッケメルクーリオ（後書き）

ソードフィッシュの設定は以下のURLへ
http://blog.livedoor.jp/tohka-1day1chara/archives/3700869.html

ピッケメルクーリオの設定は以下のURLへ
http://blog.livedoor.jp/tohka-1day1chara/archives/3643918.html

ショットダスターwithエーテルS2

かなりの敵を倒したが、近づかれすぎた。このまま抵抗していたらグレネード弾を撃ち込まれるかも知れない。そう考えたトニーは撃たれた振りをして、気密口の影に身を潜めた。

手の甲につけたショットダスターを確認し、構える。予備の弾は腰にショットダスター用クイックローダーに付けてある。このクイックローダーは押しつけるだけでショットダスターの弾丸を恙なく装填出来る優れものだ。

トニーの作戦は念のためにグレネードを打ち込まれたり、少し慎重になられでもしたら破綻してしまう。賭け、であった。

静かに、何かに触れないように、ひたすら待った。

図書艦を攻めようとする宇宙海賊にとって、予め空いている気密口は確保したいだろう。外側からハッキングを掛けたり爆破するより各段に楽だからだ。

逸る鼓動を抑える。腕は小さく。不用意に入り込んだ阿呆を狙うのだ。

１０秒……１５秒……銃身の先端が入った。

『食らえぇ！』

トニーは相手の全身を確認するより速く、ショットダスターを打ち込んだ。フレシェット弾が詰まった四発の散弾が破裂。爆発の勢いそのままに侵入者のＡＥＳを貫き宇宙服を通し全身を穴だらけにする。

直後トニーは外の様子を確認もせずに爆弾を気密口から外に放り投げる。気密口の影に隠れたまま、１秒を数えて爆破スイッチを押した。

ショットダスターwithエーテルS2（後書き）

ショットダスター
http://blog.livedoor.jp/tohka1day1chara/archives/3800106.html

エーテルS2
http://blog.livedoor.jp/tohka1day1chara/archives/3663160.html

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9612w/

ロボットコレクションSS（練習）

2011年9月26日03時10分発行